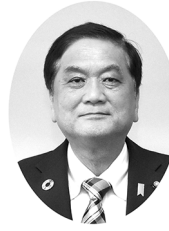


スフィア基準とTKB+Wに 対する見解について

大森 貴之



〔質問〕スフィア基準とは通称であり、正式名称を「人道憲章と人道対応に関する最低基準」という。

このスフィア基準について、本市の見解、認識を伺う。

〔答弁〕〔危機管理課長〕スフィア基準については被災者等の権利や尊厳と、苦痛を軽減するため、実行可能なあらゆる手段が尽くされるべきという理念に基づくもので、現在、政府よりこの基本指針やガイドラインを満たす「事前防災」を適切に進めるよう通知があることから、本市でも今後検討し、計画を進めていく。

〔質問〕今後、避難所運

営マニュアルをより良いものとするために、スフィア基準に可能な限りのつとめたものに更新していくべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕令和7年度白石市総合防災訓練実施計画案では、令和6年能登半島地震を踏まえた災害対応の在り方や、スフィア基準を踏まえ、本市の現状について確認すると追記している。

令和7度白石市総合防災訓練においては、改めて避難所の広さや環境などについて確認していく。

本市の実情に合わせた被災者への支援を検討し、今後、避難所開設・運営マニュアルを改訂したい。

〔質問〕Tとは安心して利用できるトイレ環境

二次元コードから各議員の質問動画へアクセスできます。

の確保。Kはキッチン、温かい食事を確保すること。Bはベッド、温かく過ごすこと。Wは暖房機器を確保することであり、避難所運営の質を高めるためのキーワードである。

TKB+Wについての見解を伺う。

〔答弁〕〔危機管理課長〕令和6年能登半島地震では、死者行方不明者515名、うち災害関連死は287名で、半数以上の方々が地震による直接死ではなく、避難生活の影響による災害関連死であることから、TKB+Wは非常に重要であると言われている。

政府は発災後、早急に全ての避難所でスフィア基準を満たすことができるよう「事前防災」を進めるとのことから、新たな交付金制度も創設されている。

今後、本市の実情に合った災害用備蓄品の整備を検討していく。

本市の防災・減災対策の充実 について

澁谷 政義



〔質問〕地震と風水害では、災害の内容や避難の時期・避難の場所等

が大きく異なるため、双方の訓練を隔年ごとに実施すべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕災害の種類によつて、開設する避難所も異なることから、双方の訓練を交互に実施することは、市民の生命や財産を守るためにも非常に有効なものと考えている。

各自治会・自主防災組織や学校など、関係機関の意見を伺いながら、白石市防災会議において訓練内容などについて協議を進めていく。

〔質問〕令和元年10月12日、台風19号の影響により、鷹巣・旭町地区では大きな被害を受けた。その課題を国や県と協議・検討されたのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕国土交通省において、「気候変動を踏まえた浸水対策の強化」を掲げており、国の交付金を活用して最大クラスの降雨を想定した浸水シミュレーションをもとに、雨水管理総合計画を策定する。

◎ 防犯カメラの設置状況について

〔質問〕安心・安全な社会を形成する一助として、防犯カメラの駅や商店街、市内公道各所、各地区の施設等への増設を推進すべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕現在、施

設管理用の監視カメラを設置している箇所もあるが、防犯という大きな視点からすると十分とは言えない。

今後、プライバシー侵害や防犯カメラの設置・維持管理費用の課題も踏まえ、検討していく。

◎ 市道周辺の除草について

〔質問〕温暖化の影響を受けて、道路の雑草管理が困難になっている。また、除草作業に従事する作業員の作業軽減を考慮して、除草剤の有効活用を考えるべきと思うが、いかがか。

〔答弁〕〔建設課長〕これまでも、農産物等への影響が小さい市内中心部の道路を中心に、除草剤を使用している。

今後現場の状況に合わせて、除草剤の使用も考慮し除草作業を行なっていく。